

# リアルタイム音カメラ アフリカへ飛ぶ



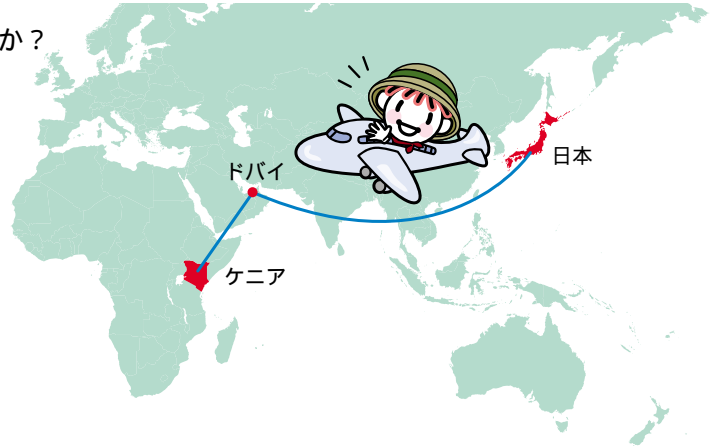
中部電力のリアルタイム音カメラがアフリカのケニアへ！  
取材に同行したスタッフにインタビューしました。

## 音カメラに取材依頼が舞い込む



どのような経緯でアフリカ行きが決まったのですか？

NHK放送局より、「アフリカゾウが低周波音で会話しているようだが、人間の耳には聞こえないので音カメラで“ゾウの会話”を見たい」という依頼がありました。当初は音カメラのみを貸してほしいという話でしたが、機器の取り扱いには専門知識がいるためスタッフも同行することになり、ケニアまでアフリカゾウの撮影に行くことが決定したんですよ。



テレビ番組の取材ですか？

はい、NHKの「ダーウィンが来た」という自然番組の企画でした。実はケニアへの取材は今回が2回目。1回目は平成18年3月に10日間ほど。その模様を放送した回が視聴者の方に好評だったため、特別番組が制作されることになり、2回目のケニア取材が決まりました。今回もタイトなスケジュールで、話があってから出国まで約1ヵ月しかなかったんです。準備に大慌てでしたね。



準備が大変だったようですが、どのようなことに気がつけましたか？

### 精密機器の取り扱い

ひとつは機器の管理です。精密機器ですから当然壊れやすく、しかも国外に出すのは初めてだったので、パソコンの予備と現地で修理できるようケーブル類や部品、工具などを一式持参しました。

またサバンナでどうやって電源を確保するかも問題でした。現地では考えられるのは自動車のバッテリーから電源をとること。そのためにコンバータを持参して対処しました。このような動物の実験は初めての試みだったので、1回目の取材前には東山動物園さんの協力を得て、実際にゾウ(ここではインドゾウ)の会話が見えるのかを調べました。これならいけるだろうという結果が出てひと安心しましたけれど(笑)

### スタッフの渡航準備

もうひとつは“人”の問題でした。取材が決定的してから数日後には病院で予防接種を受けています。アフリカはアフリカでも普通の観光ではなく動物の取材だと病院で話したら、注射の種類は増え、3回に分けて結果的に計7本を打ちました。



モニタ画面



東山動物園での測定実験

## いざケニアへ出発！

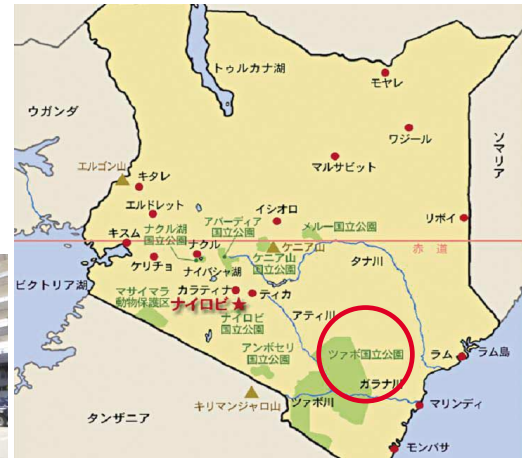


今回の取材の概要を教えてください。

- 目的 / ゾウの密猟が深刻化しているアフリカのツァボ国立公園で、親を亡くしてしまった子ゾウと野生に戻ったゾウの群れを追う。
- 目的地 / アフリカケニア共和国 ツァボ国立公園
- 日程 / 平成19年1月21日から2月4日
- ルート / 中部国際空港 ドバイ ナイロビ空港  
ナイロビ空港から車で8時間ほどでツァボ国立公園に到着。
- 取材スタッフ / 中部電力社員2名、カメラマン、番組ディレクター、現地ドライバー兼ハンター



ナイロビ空港



ツァボ国立公園はどのようなところなのでしょうか？

ツァボ国立公園は、世界で最も野生のアフリカゾウが多く暮らすといわれる場所。その敷地内にあるシェルドリック孤児院(ゾウの孤児院)では、密猟などによって親を亡くしてしまった子ゾウを保護し、エサの食べ方など生きていくために必要なことを教え、やがて野生に帰す活動をしています。今回はそこから巣立ち、野生に戻ったゾウの群れに密着し、彼らの会話を探りました。



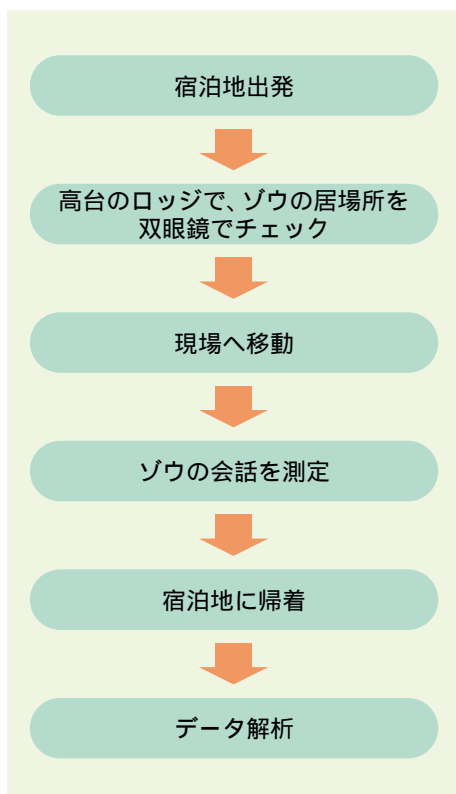
インパラ



キリン



1日のスケジュールを教えてください。



宿泊地「ボイ・サファリ・ロッジ」



ゾウの居場所をチェック



ゾウの会話を測定



取材メンバー：写真左から、中部電力の和田浩之さん、番組ディレクターの黒木 勝さん、ドライバー兼ハンターのニコラスさん、カメラマンの淵上 拳さん、中部電力(現在 中電不動産)の杉山 武さん



ツァボ国立公園のふもとにあるVoi(ヴォイ)の街並み

## アフリカゾウとついにご対面！



アフリカゾウってどんな動物？

アフリカゾウの体長はオスで7m、メスで6m前後。陸生動物では世界最大といわれ、基本的に10～20頭の群れで生活しています。

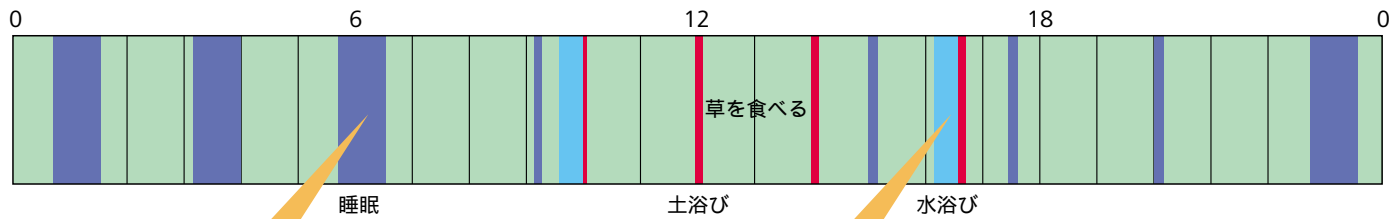
ゾウ研究の第一人者であるジョイス・ブルさんによると、アフリカゾウは低周波で会話をし、コミュニケーションをとっているそうです。



第1回目の取材に同行していただいたジョイス・ブルさん（写真中央）



### 【アフリカゾウの1日】



ほぼ一日中草を食べながら歩いています。それ以外の時間は、数分から数十分の仮眠、日焼け対策の泥浴び、水浴びをしています。



過酷な撮影条件だったそうですが、どのように撮影されたのですか？

車のサンルーフを全開にし、音カメラとハイビジョンカメラを上に出してアフリカゾウに迫ったのですが、車内はまさに灼熱地獄でした。赤道直下の強い日差しがさんさんと降り注ぐため、機材の熱対策にはサンシェードやダンボールを使用。スタッフは全員帽子に襟付きの長袖シャツ、長ズボンで臨みました。車内はたくさんの機材で占領され、人が3人やっと入れるほど。炎天下かつ窮屈な車内での長時間の撮影は本当につらかったです。



灼熱下の撮影



窮屈な車内



良い映像を捉えるために何か工夫はされたのですか？

音カメラの音情報を高画質なハイビジョン映像で放送できるよう、音カメラの音情報と、ハイビジョン映像を合成して映像としています。そのためには、音カメラとハイビジョンカメラが常に同じ向きである必要があり、これを専用の機材で実現しました。



リアルタイム音カメラ+ハイビジョンカメラ



熱対策としてダンボールで囲ったPC

## ゾウの会話が判明!?



アフリカゾウの会話はどのように分析するのですか？

音カメラの映像を見て、どのゾウが低周波音を出しているか判別します。1回目の取材時にはゾウ研究者のジョイス・プールさんに同行してもらい会話の意味を分析してもらったのですが、2回目の取材ではジョイスさんから事前に会話の周波数パターン(声紋)を覚えてもらい、それに沿って分析しました。

取材の結果、ゾウは人間の耳に聞こえない声で会話していることが明らかになりました。さまざまな言葉を使い分け、家族や友だちとコミュニケーションをとっています。ゾウにとって言葉がいかに大事なものが分かりました。



左のゾウがいたずら 右のゾウ「やめるよ」  
(これは人間の耳にも聞こえた)



左上のゾウに向かって右のゾウ「早く降りておいで」  
(このときは何も聞こえなかった)



背後にいる子ゾウに「さあ、出発するよ」  
(このときは何も聞こえなかった)



いろいろあったケニア取材でしたが、感想を聞かせてください。

大変なこともありましたが、貴重な体験をさせてもらったと思います。きっと、この依頼がなければ、生涯ケニアに行くことはなかったでしょうから。大自然の中で生活をして、

地球の偉大さを感じることができました。取材後の分析作業にはかなりの時間を費やしましたが、初めてゾウの会話を見ることに成功し大満足です。

## 取材ウラ日記

## サービスエリアのチャイには注意!!

後で知ったのですが、ケニアでは都市部やホテル以外は水が貴重なため食器をあまり洗わないそうです。和田研究員がサービスエリアで飲んだチャイ(ミルクティ)で腹痛に…。その後、数日間は続いたそう。



問題のチャイ!

## 食事は意外に豪華!?

ホテル内のレストランはビュッフェスタイル。新鮮な野菜や果物が豊富でバランスの良い食事が味わえ、食後はケニアコーヒー(お湯だしコーヒー)やチャイも楽しめる。



見た目にも鮮やか

## 宿泊地は昆虫だらけ!

宿泊地はツァボ国立公園内にある唯一のロッジ。意外にも快適な空間だが、床にはバッタやコオロギなどの昆虫、天井にはヤモリが…。厚底のスリッパは必需品。



蚊帳があるもの、穴だらけで意味なし...

## 360度の大パノラマ

宿泊地は小高い山の上にあるため、360度すべて地平線が見え、景色は最高! 夜は地平線から上の半球面すべてが星空に! この景色には見入ってしまいます。



はるか地平線が見える